

## ◆ 今週のコメント

- ・ 新型インフルエンザウイルスによる急性脳炎の追加報告が1例(男7歳)あり、第38週の2例(男2歳, 女6歳)以来で、3例目の報告となっています。推定感染経路は飛沫感染・飛沫核感染、推定感染地域は国内です。
- ・ 10月21日～10月27日の新型インフルエンザによる全国の入院患者数は570人で、そのうち基礎疾患を有する者等が186人、急性脳症・人工呼吸器使用患者数は27人です。年齢群別にみると、「5～9歳」が277人で最も多く、次いで「10～14歳」の119人となっています。
- ・ 11月1日に、市内初めての新型インフルエンザによる死亡例が1例(30歳, 女性, 軽い喘息症状の通院歴有)あります。全国の死亡例は、8月15日の1例目から11月1日までで43例です。
- ・ RSウイルス感染症の報告は1例(1歳)で、8週連続の報告となっています。本年の累積報告数は79例で、同時期までの年当たり報告数としては、感染症法に基づく届出の対象となった平成15年以降、平成20年の93例に次いで多くなっています。

## ◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は20.65(1404例)で、注意報の基準値(10)を超えており、急増しています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

- ・ 五類:急性脳炎 1例(第40週追加)【1月以降の累積報告数 4例】
- ・ 五類:梅毒(早期顕症:Ⅱ期) 1例(第42週追加)【1月以降の累積報告数 2例】

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	20.65	1404
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.95	80
	② 水痘	0.56	23
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.37	15
	④ 突発性発しん	0.32	13
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.27	11
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

### 病原体情報

ありません。

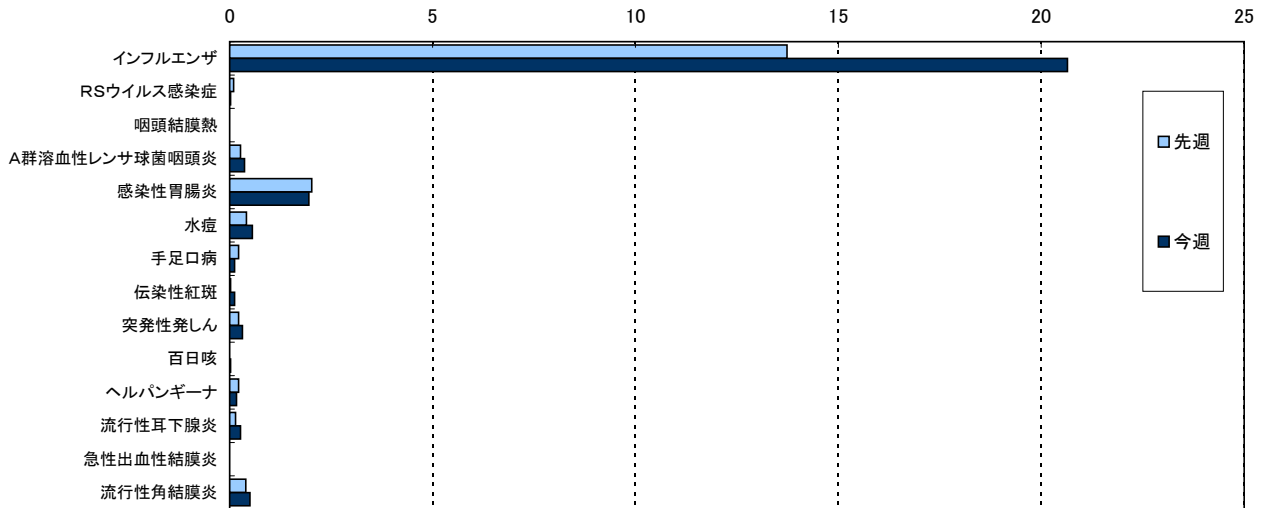
### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

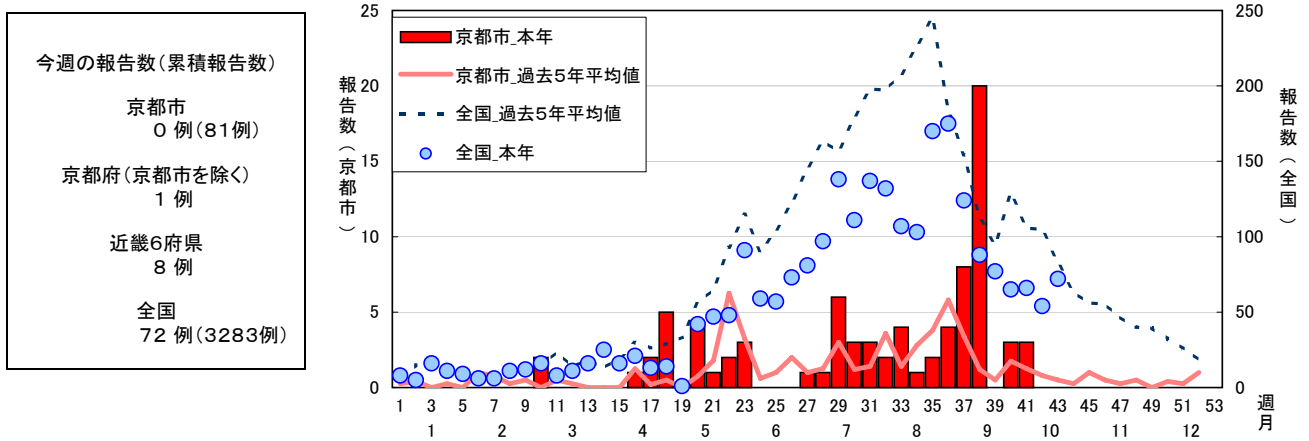
(注) 京都市のデータは、平成21年10月30日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第43週)と先週(第42週)の定点当たり報告数の比較



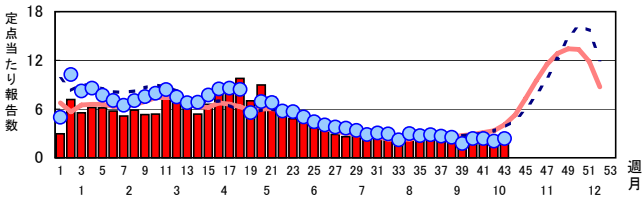
## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移



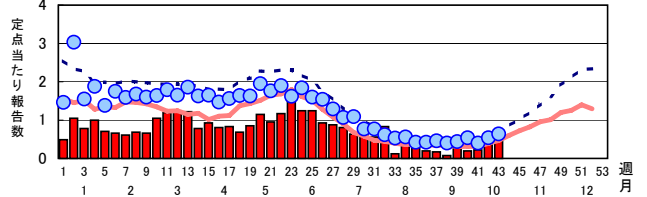
## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

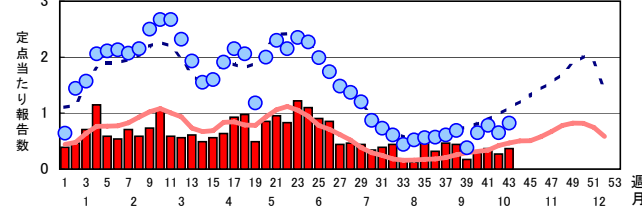
1 感染性胃腸炎



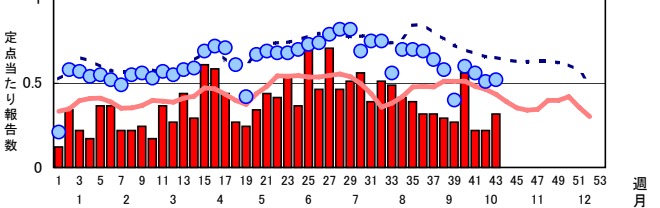
2 水痘



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

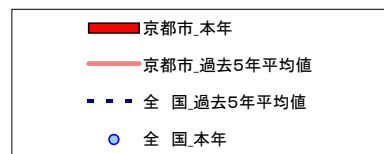
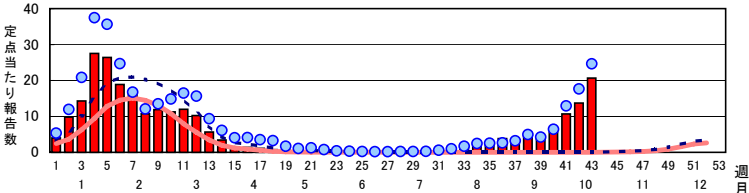


4 突発性発しん



<インフルエンザ定点>

インフルエンザ



## 第43週(10月19日～10月25日)トピックス: <インフルエンザ>

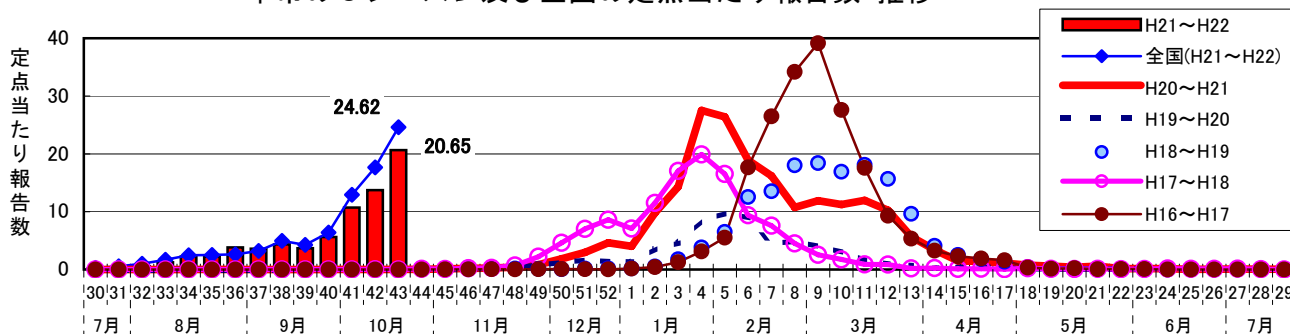
インフルエンザの定点当たり報告数は20.65(1404例)で、注意報の基準値(10)を超えており、急増しています。全国では24.62で、北海道、秋田県、愛知県、兵庫県、福岡県では警報の基準値(30)を超えています。

年齢群別構成割合では、「5～9歳」の割合が第39週以降増加しており、今週は「10～14歳」を上回り、最も高い割合となっています。

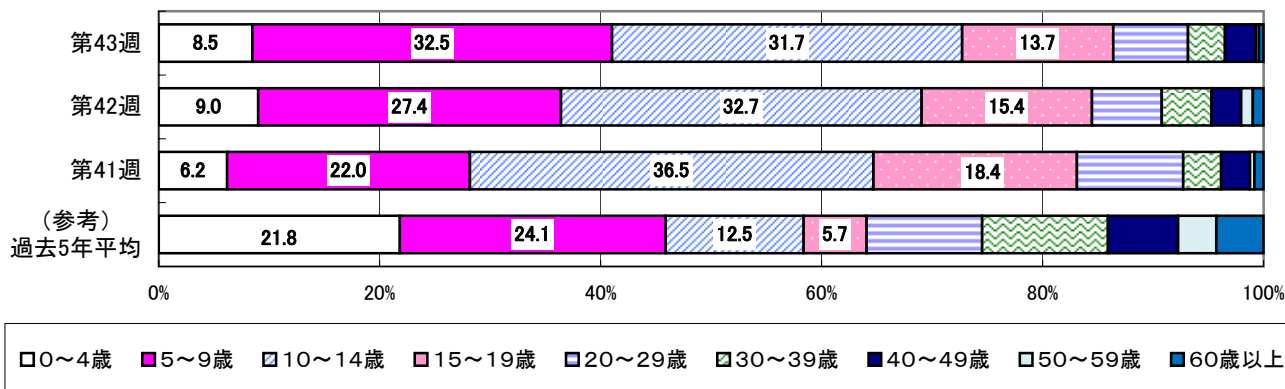
行政区別定点当たり報告数をみると、ほとんどの行政区で注意報の基準値(10)を超えており、東山区、南区では警報の基準値(30)を超える値となっています。

なお、第43週に京都市衛生公害研究所でPCR検査を実施した24例のうち、3例は陰性、21例はA型インフルエンザウイルスが検出され、そのすべてが新型インフルエンザウイルス(A/H1N1)[AH1pdm]です。

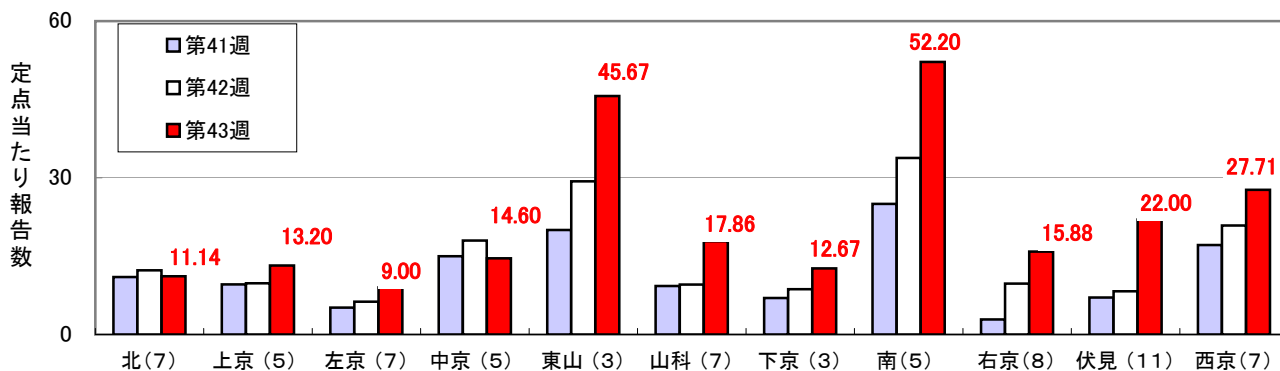
本市の6シーズン及び全国の定点当たり報告数 推移



年齢群別構成割合の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



(注) 定点にどのような医療機関が含まれているかによって、左京、伏見などでは例年、定点当たり報告数が低くなる傾向があります。